

# がらす 小樽の硝子をもっと知ろう！

子どもたちに小樽のガラスをもっと身近に感じてもらおうと、市では平成24年度から「卒業記念硝子製作体験事業」を実施しています。今回はこの体験事業と小樽のガラスについてご紹介します。



## 硝子の街・小樽

市内には個性的なガラス作品を製作する工房や製品を販売する店舗が多くあり、たくさんの観光客でにぎわっています。

「硝子の街」として知られる小樽ですが、どのようにしてガラス産業が発展してきたのでしょうか。

小樽の歴史が書かれた『小樽市史』において、ガラス産業が初めて登場するのは明治24（1891）年です。

明治30年代になると、新たなガラス工場がいくつか設立され、工場ではランプの火屋（ランプなどを覆う筒）や瓶、食器類などが製造されました。その後、北洋漁業や小樽近海でのニシン漁が隆盛期を迎えると、網の位置を確認するために使用していた木製の浮き玉より、水が染み込まずに浮くガラス製の浮き玉の需要が増していきました。

しかし、その後漁獲量が不安定になり、プラスチック製の漁業用浮き玉が普及したことなどもあり、ガラス製の浮き玉の需要は減退していきました。こうした歴史を経てきた小樽のガラスですがその後、ガラス販売店・工房の開設や、多くの方々によるブランド化の取り組みにより、小樽の歴史的な街並みに合ったイメージが醸成されてきたのです。

## 世界に一つだけの作品を

明治時代から続く小樽の地場産業であるガラス産業をより身近に感じてもらいたいとの考えから、市では平成24年度から小学6年生を対象に「卒業記念硝子製作体験事業」を行っています（右下の囲み①を参照）。

市内のガラス工房で職人と一緒に自分だけのガラスを製作し、地場産業について学ぶというもので、これ

## 硝子をもっと身近に

### ①卒業記念硝子製作体験事業

- ◆実施期間：6月1日（金）～平成31年2月28日（木）
- ◆体験工房：学校ごとに指定された工房
- ◆対象：平成31年3月卒業予定の市内の小学6年生

### ②第10回小樽がらす市

職人手作りのガラス製品やアクセサリー、アウトレット商品などの展示販売のほか、製作体験も行います。

また、市内の小・中学生等からガラスのデザインを募集し、ガラス職人が実際に製作する「ガラスデザインコンテスト」入賞作品の展示や、全国的にも珍しい移動窯を利用した、屋外での吹きガラス体験「青空硝子工房」も行います。

- ◆とき：7月27日（金）の正午～午後9時、28日（土）の午前10時～午後9時、29日（日）の午前10時～午後8時
- ◆ところ：旧国鉄手宮線、色内広場（文学館・美術館屋外広場）
- ☒詳細 産業振興課 ☎④4111内線263、FAX③7432



までに4400人以上の児童が体験しています。

実際に体験した子どもたちからは、楽しくガラスについて学ぶことができたという感想を聞くことができました（下段を参照）。

7月には「おたる潮まつり」と同時期に「小樽がらす市」を開催します（右の囲み②を参照）。北海道最古の鉄路が残る旧国鉄手宮線に、市内をはじめ全国のガラス工房などが集まり、職人手作りのガラス製品が並びます。

小樽で長く愛されてきたガラスを、普段の生活に取り入れてみるのも良いかもしれませんね。

◆お問い合わせは、産業振興課 ☎④4111内線263、FAX③7432 へどうぞ。

## 卒業記念硝子製作体験をした子どもたちの感想（抜粋）

歴史ある小樽特有の文化の一つということを改めて感じ、ガラスについてもっと知りたいと思いました

緊張したけど、丁寧に教えてくれたので、楽しく作ることができました

今まで小樽のガラスをあまり見たことがありませんでしたが、今回の体験でガラスに興味を持つことができました

次は友達や家族とガラスを作りに行きたいと思いました

あんなに暑い中でガラス製品を作っている職人さんはすごい！

ガラス製作体験の様子

